

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 101

学校名・団体名	上板町立高志小学校
HPアドレス	https://e-school.e-tokushima.or.jp/kamiita/es/takashi/html/htdocs/
コース	学校支援
活動・研究テーマ	消費者教育を中核にしたSDGsへのアプローチ
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>本校児童は地域社会の行事に積極的に参加したり、地域社会の出来事を積極的に学んだりしたりする態度は少なく、社会のために役に立ちたい、よりよい社会の構築のために努力したい」と考える児童も少なく、自分の将来に対しても夢や希望を持ち、肯定的に捉えることができていない。</p> <p>教職員も新しい教育課題に対応し児童・地域のために創造的な教育活動に取り組もうとする意欲が低い。そこで、高学年児童を中心に、よりよい食を提供しようとして新しい手法で畜産に取り組む地域の農家の方との交流・体験活動、エシカル消費者の育成を目指して取り組む企業・NPOと協力して参加体験型学習を充実することにより、自分や地域の将来に夢や希望を持ち、SDGs（持続可能な開発目標）を達成できるエシカル消費者として質の高い生活の構築・地域産業の発展・地球環境の保護に貢献できる児童を育成する。教職員には食育・国際理解教育を通してエシカル（倫理的な）消費者を育成することによりSDGsにアプローチし、価値・行動の変容を図り、持続可能な社会を構築できる児童の育成の重要性を認識させることを目的とする。</p>	

<活動・研究報告>

1 活動内容

(1) 対象者 3年生～6年生 98名 (3年生29人・4年生23人・5年生22人・6年生24人)

(2) 実践教科

総合的な学習の時間を中心に、教科横断的に全教科・領域において取り組む。

(3) ねらい

生産・消費に関する体験・交流等の具体的な活動を通じて、生産・消費に関して合理的な意思決定ができ、社会の一員(消費者)として、よりよい社会の発展・持続可能な社会の構築のために、積極的に行動できる児童(エシカル消費者)の育成を図る。

(4) SDGsを達成するための具体的理念

①消費者として 「わたしたちは、生まれたときから、生涯を通じて「消費者」である認識。

②賢い消費者になろう

- ・消費は個人の生活を豊かにすると同時に、社会の在り方を変える力をもつ事を認識する。
- ・消費行動の変容は持続可能な社会をつくりだす原動力となることを指導者が認識する。

③賢い消費者とは

○合理的な意志決定ができる消費者

- ・お金の価値を知っている人 ・衝動買いをしない ・トラブルに巻き込まれない
- ・モノの価値を知っている人 ・買い物が社会にどのような影響があるかを知っている
- ・安全、安心なものかどうかを判断できる

*賢い消費者になるためには、体験的な活動・学習を通して知識・技能を身につけないといけない。

④消費者教育を通じて育む力

○対象領域と育む力

対象領域	育む力
生活の管理と契約	選ぶ力・計画する力 ・選択し、契約することへの理解と考える態度 ・生活を設計・管理する能力
商品等やサービスの安全	安全・安心を求める力 ・商品安全の理解と危険を回避する能力 ・トラブル対応能力
消費者市民社会の構築	社会の一員として行動する力 ・消費がもつ影響力の理解 ・持続可能な消費の実践 ・消費者の参画、協働
情報とメディア	情報を見抜き、活用する力 ・情報の収集、処理、発信能力 ・情報社会のルールと情報モラルの理解 ・消費生活情報に対する批判的思考力

(5) 具体的な実践

【5年生】

◎3Rの推進から持続可能な社会づくりを進める

①活動の目的

地域の各家庭で使用しなくなった子ども服を回収し、ユニクロ・国連難民高等弁務官を通して、世界各地の難民の子どもに服を送り、世界の子どもたちを笑顔にする。同時に「世界一大きな授業に参加し世界の子どもたちが置かれている非識字の現状を学び、教育の重要性を学ぶ。

②具体的な活動

- ・世界一大きな授業に参加 ・ユニクロの出前授業 ・子ども服回収のための、ポスター・ちらし作り
- ・各学校でのプレゼンテーション・新聞のおりこみチラシの配布 ・子ども服回収 ・子ども服の梱包
- ・ユニクロへ子ども服発送 ・難民の子ども達への服の支給 ・世界の子どもたちの幸せを考える
- ・お礼のメッセージを折り込みチラシで配布

(成果)

○服のチカラプロジェクト(地球環境、社会に与える影響を考慮した消費行動)

- ・全町民に呼びかけて子ども服回収3RでESDを推進することができた。
- ・世界一大きな授業、難民の現状から世界中に質の高い教育を普及することが重要であることを学ぶことができた。持続可能な社会は消費者市民の意識を変えることが重要であることを認識した。

◎総合的な学習の実践について、テレビ番組づくりを通して情報活用の仕方・情報モラルを育てる「キミが主役だ！NHK放送体験クラブ」に出演

①活動の目的

テレビ番組作りを通して、情報社会のルールやモラルを学び、情報とメディアの側面から消費者教育を実践し、メディアが果たす持続可能な社会作りの重要性を学ぶ。

②具体的な活動

- ・学級で相談して「服のチカラプロジェクト」をテーマに番組作りを進める。
- ・テーマについてビデオや写真編集を進める。
- ・台本を作成し、取材したビデオをNHKに送付する。
- ・NHK徳島放送局で番組作りをし、放映してもらう。

(成果)

- 今までの実践の情報の整理・分析、情報の活用を行うことができた。
- 自分や友達の個人情報を守ることの大切さを体感することができた。
- 著作権や発信する情報の責任の重さを考えるようになった。(事実に基づいて正確な情報発信)

【6年生】

◎地産地消の推進から、環境・経済・社会に配慮したエシカル消費者を育て持続可能な社会づくりを進める。

①活動の目的

校区で環境・安全安心・地域創生に配慮した養豚業に取り組む養豚家から循環型農業の重要性を学ぶと同時に地産地消がもたらす地域や地球環境にもたらす影響を学ぶ。

③具体的な実践

- ・金時豚との出会い 養豚業：納田さんとの出会い
- ・美味しい、環境によい、健康によい豚を消費者の方に届けたいという願いを聞く。
- ・複数回の養豚体験活動と金時豚のよさの探求活動
- ・納田さんへのインタビュー活動（命の大切さ、循環型農業の重要性、エシカル消費者を増やしたい地産地消のよさと地域創生、美味しい食への貢献、安心・安全な豚作り等）
- ・金時豚宣伝パンフレットをつくろう
- ・金時豚を使った料理をしよう、給食センターにお願いして「金時豚カツカレー」の提供

(成果)

- 地産地消のよさを体感することができた。
- エシカル消費者になることが地域文化だけでなく、地球環境等を守ることにつながることを学ぶことができた。
- 自分たちが世話をした豚を食べることにより、命をいただくことに深い意味を学ぶことができた。

(6) 実践を通しての具体的成果

- ・商品の背景（環境への配慮、社会的弱者への配慮、持続可能な社会作りへの配慮等）を考慮して、消費行動を行うエシカル消費について体験を通して考えることができた。
- ・世界一大きな授業、難民問題を考えることを通して、持続可能な社会を作るためには、質の高い教育を世界中に普及させることが重要であることを学んだ。
- ・生産と消費の関係性を学ぶことにより、日本と世界のつながり、地球的な課題を体験的に学ぶことができた。
- ・一人一人の消費行動を変えることが社会・日本・世界を変えることにつながり、エシカル消費が持続可能な社会作りに果たす役割が多きことを学んだ。

(7) 消費者教育を推進しての成果

- ・子どもたちにとって、自分達一人一人が消費者であるという認識ができた。
- ・生産と消費の関係性を認識することができた。
- ・消費する際に何が大切か考えて意思決定ができるようになってきた。
- ・自分達の消費行動と地域産業の継続・発展と密接に関連していると感じることができた。（地産地消の重要性）
- ・体験、交流を通した楽しい、主体的に地域社会と関わる教育実践が増えた。
- ・一人ひとりの消費生活と世界の課題と繋がっていること、エシカル消費について考える契機を持つことができた。